

# 未来を創る家族のチカラ!天運を引き寄せる愛天愛人愛国の生活 「私を憎む者までも、ひたむきに愛そう」

真の父母様自叙伝心の書写&孝情フェスティバル 2020年6月14日(日) 於：浜松北家庭教会

新型コロナによる影響がまだまだ残る中ですが、矢野治佳局長と登美子夫人が浜松北家庭教会に、癒しと元気のみ言を届けに来てくださいました。

礼拝堂で参加する方と、オンラインで参加する方とどちらにも等しく恩恵があるように工夫をして、オンラインの礼拝として取り組んでいきました。

## ■青年部エンターテイメント

外出自粛の影響で、しょしゃのすけ一行はリモート相談室を設けることに。テレワークでずっと家にいる夫が何も手伝ってくれないと嘆く婦人の恨みの心が、自叙伝心の書写のみ言、「私を憎む者までも、ひたむきに愛そう」を繰り返し書き写し、自分と向き合う中で、夫の気持ちをわかっていなかったのは自分だったという事に気づき、悔い改め、夫と見事和解しました。真の父母様のみ言と自叙伝書写がまた一人の悩める家庭を救ったのでした。

## ■李観東教会長ご挨拶

新型コロナウイルスのことで様々な心配によるストレスが増える生活の中、我々が未来に向けて家族の愛を大切にしていくその時間として、今日は本部から矢野局長ご夫妻をお迎えする事ができました。

今、真のお母様の自叙伝を通して、許し愛し一つになることで、家庭で愛と喜びがあふれるよう、皆さんが祈っていると思います。

私たちが現実にかけている様々な現実を、信仰で乗り越えていくための知恵を、大切な命のみ言として集中して賜りたいと思いますと、矢野局長の講話を受ける内的な姿勢を整えて下さいました。

## ■矢野治佳局長 講話

新型コロナに関して啓示を受けたヴィヴィアン・リーチという方の「コロナウイルスから人類への手紙」や日本赤十字社作成の「ウイルスより恐ろしいもの」という動画の内容を、冒頭ご紹介くださいました。この度のウイルスの流行を地球からのメッセージと受け止め、団結して恐怖に打ち勝っていかうとするこの内容が、多くの人の共感を呼んでいます。

体だけでなく心を守っていかなければならない昨今、私たちはどうしていけばいいのかを語っていただきました。以下、講話の内容です。





原理講論では「ある悪の勢力の主体があり、これをサタンと呼んできた」と語られています。今から2000年前に来られたイエス・キリストは「神様、彼らを許してください。彼らは自分が何をしているのかわからないのです」と言いながら、愛を裏切り、自らを十字架にかけた人たちの救いを神様に祈りながら亡くなっていきました。

そして文先生は16歳(数え)の時、日本占領下の韓国という深刻な困難と疑問の祈りの中で、イエス様と出会われました。

救い主の使命は人類を救うことです。「人類」とは、日本のことも含まれています。自分を迫害し憎んでいる人も救わなければなりません。

敵というものは、夫婦、嫁姑、親子など、案外身近にいるものです。最も近くにいる人が怨讐になりやすいのです。

イエス・キリストは「隣人を愛しなさい」と言いました。コップが水をくむために作られているのなら、穴が開けばコップとしての意味がありません。人が人を愛するために作られたのなら、人を憎むようになればもう人間としての価値がないと詠っています。

自分に害を与えてくる人を憎む心が生まれるのは当然のことです。しかし、感じたことに対して自分がどのように対応するのかということは自分の責任なのです。文先生はこの苦悩の末に到達した勝利の境地が、人類の平和と幸福のために生涯を捧げる原点となりました。

ある婦人がみ言に出会い、離婚した夫への恨みを克服し夫も改心し、今は復縁して幸せに暮らしているという証しがあります。そんな婦人を変えるきっかけの言葉が「私を憎む者までも、ひたむきに愛そう」でした。

彼女自身が絶え間ない葛藤の中で努力をして、その結果愛によって恨みを克服するというその一点を迎えることができました。

この言葉はとても重くて深く難しい言葉に思えるかもしれませんが、私たちは自分がどういう人生を本当に生きたいのかという自覚と選択、それを迫る言葉なのだと思います。

マザーテレサは、「世界平和の為に何をしたらいいですか。」という記者の質問に対して「家に帰って家族を大切にしてください。」と言われたそうです。ぜひ、私たちもまず隣人を愛するところから、こうした歩みが出来たらいいということを祈って、今日の私のメッセージとさせていただきます。

今私たちが何をして行くべきかをしみじみと考えさせられる尊いひとときとなりました。本当にありがとうございました。





## ■登美子夫人ご挨拶

日本の伝道教育を牽引して下さる矢野局長を、内助の功で支えられる、登美子夫人があいさつをして下さいました。

「こちらに呼ばれて本当に嬉しいです。浜松北教会が活躍している姿を嬉しく思っております。伝道教育ニュースや世界家庭の証しも見させていただき、いつも頑張っている皆様の素敵な活動に励まされております。」

お二人の仲睦まじい姿からご父母様の香りを感じさせて頂きました。



## ■懇親会

矢野局長ご夫妻を交えて、コロナ禍による活動自粛期間の過ごし方や、本日の講話の中でそれぞれが感じたことを発表させていただきました。「栄光の王冠」の詩が、矢野局長の唇を通して語られることで、一層心に響いてくると婦人部長が述べられていました。

矢野局長は、いろいろな可能性を感じさせられる期間であり、また浜松北教会のインターネット環境が、機材・人材共に整っていることに言及され、コロナがあってもなくてもこういった環境を整えていくことが大事であると仰いました。

登美子夫人は、様々な事情を抱える家庭を、この間も訪問させてもらい、ひとつになる難しさを感じる中、本日はいろいろなアイデアを教えられることがありました、と感謝の言葉を頂きました。

## ■参加者の感想

今日のみ言にあった神様の3つの教えをもって、本心で毎日を歩んでいきたいと思えます。青年部の劇も良かったです。ありがとうございました。

矢野局長のみ言は最初から最後までとても感動的でありしっかりと胸にきざむべき重要な内容でした。お父様がイエス様に「憎む相手までも愛する覚悟を決めなさい」といわれたことが、まさに十字架における重大なみことばだったのかと感じ感銘を受けました。

そして憎むことは仕方ないとしてもどう対応するかが問題でどういう人生を生きたいかというとても意義深い内容だと感じました。少しでも前に進めるよう努力したいと思えます。

